

## 『梅白し まことに白く 新しく』 ～二月の一句～

今月に発行された本校の図書館だより<2月号>によりますと、今年度の4月～1月までの貸出冊数は、1年生：1,221冊、2年生：1,694冊、3年生：665冊で、全校で3,580冊となっています。一人あたり平均の貸出冊数は、1年生：17冊、2年生：24冊、3年生：10冊です。

“あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である。”これは、アルベルト・アインシュタインの言葉です。本校図書室の蔵書数は、2月12日現在で、今年度の新着本262冊をふくめ8,932冊です。これからも、本との豊かな出会いを楽しんでほしいと思います。

本校図書室の前には、おすすめ図書の展示や工夫を凝らした掲示物があり、そこに毎月、その月の一句が掲示されています。今年度、掲示されていた今月の一句をご紹介します。



四月	菜の花や 月は東に 日は西に	与謝蕪村
五月	木々の香に むかいて歩む 五月来ぬ	水原秋櫻子
六月	六月を 綺麗な風の 吹くことよ	正岡子規
七月	閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声	松尾芭蕉
八月	夏草や 兵どもが ゆめの跡	松尾芭蕉
九月	草の葉を 遊びありけよ 露の玉	服部嵐雪
十月	天高し 雲行く方に 我も行く	高浜虚子
十一月	風や 海に夕日を 吹き落とす	夏目漱石
十二月	大晦日 定めなき世の さだめかな	井原西鶴
一月	冬の水 一枝の影も 欺かず	中村草田男



そして、二月の一句は、『梅白し まことに白く 新しく』です。作者は、高浜虚子の次女で昭和期の俳人である星野立子(ほしのたつこ)氏です。この句の季語は梅で、「白梅が本当に白く咲いています。毎年同じものが咲いているけれど、今年も新しい気分で楽しめるよ。」という意味です。

この句を図書室の前で読んだとき、いろんなイメージが膨らみ、楽しくなりました。詠んだ作者が見た白梅や景色、その時の天気、朝昼夕夜のいつか、作者一人だったのか誰かと一緒だったのか、作者の表情や心情などなど。

毎年咲いている白梅を気持ち新たに発見し、気づいた作者の豊かな感性に感動します。同じものでも、それを見る(意識して見る・見ようとする)自分自身(の成長)によって、新たに発見し、新たに価値や意味に気づくことは、自分を豊かにします。これは、人がもっている学ぶためのすてきな力です。私たちは日々の生活の中でこの力を培っていて、本もこの力を大いにのばしてくれます。

## お知らせとお願い

お知らせが遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

本校におきまして、令和元年度(昨年度)のいじめ認知件数は0件であったことをここにお知らせいたします。令和元年度(昨年度)のいじめ認知件数に関わりまして、学校の方で把握できていない事案等がございましたら、本校までお知らせください。(西中学校 22-4807)

なお、これまでも、いじめにかかわる事案は、その都度、関係生徒のご家庭に事案の内容や学校の対応等をお伝えしておりますことを申し添えます。

(文責 木村彰男)